



那覇空港 空港内作業車両で バイオディーゼル燃料「B100燃料(リーゼル)」の利用拡大

JALは、CO2排出量削減への取り組みの一環として、2022年11月から那覇空港配備の空港内作業車両であるトイングトラクター^{(*)1}3台の燃料を軽油からバイオディーゼル燃料濃度100%の「B100燃料(リーゼル)^{(*)2}」に置き換えて運用してきました。今回、リーゼルの供給量を拡大し、専用タンクを空港内に設置して運用を拡大いたします。

(*)1 空港制限区域内にて航空貨物やお客さまの手荷物の運送用コンテナを牽引する車両

(*)2 蒸留精製処理においてエステル成分の純度を99.9%にまで高めた、高品質な軽油代替燃料

この取り組みは、沖縄県内の飲食店や家庭から排出される植物由来の廃食用油を、株式会社アトラス(沖縄県糸満市)がバイオディーゼル燃料に精製し、株式会社那覇空港給油所(沖縄県那覇市)が空港内での保管・管理を行い、りゅうせきグループ(沖縄県浦添市)が販売します。これまでの運用では、トイングトラクター3台で年間CO2排出量を約30t削減^{(*)3}しましたが、本運用では10台に拡大し、年間約100tのCO2排出量削減^{(*)4}が見込まれます。また、供給量拡大に伴い、株式会社マツノ技研(広島県広島市)製の専用少量燃料タンク(容量990L)を空港内に設置することにより、保管や給油のオペレーションが飛躍的に向上することが期待されます。

(*)3 (*4) いずれも軽油を使用した場合のCO2排出量との比較

また、那覇空港におけるエコエアポート化の取り組みとして、那覇空港で飲食店を展開する空港ターミナルサービス株式会社(沖縄県那覇市)が運営する店舗で発生した廃食用油もバイオディーゼル燃料に精製し、トイングトラクターの燃料として活用しています。



JALは持続可能なエネルギー利用によるCO2排出量削減と地産地消による循環型エネルギーの取り組みを推進し、今後も地域や社会と連携して地域の課題の解決に取り組んでまいります。

また、沖縄地区JALグループのSDGsの活動として、日本トランスオーシャン航空が、美ら島の素晴らしい光景がいつまでも続くように、子供たちの笑顔を未来につなぐための想いをこめて「結∞ACTION」を制定し、各種の取り組みを進めております。JTA結∞アクション: <https://jta-okinawa.com/sdgs/>



JAPAN AIRLINES

JAL AREA NEWS OKINAWA

- 【運用開始日】 2024年12月23日(月)～
- 【対象空港】 那覇空港(沖縄県那覇市)
- 【対象車両】 那覇空港配備 JALトーイングトラクター 10台



以上